

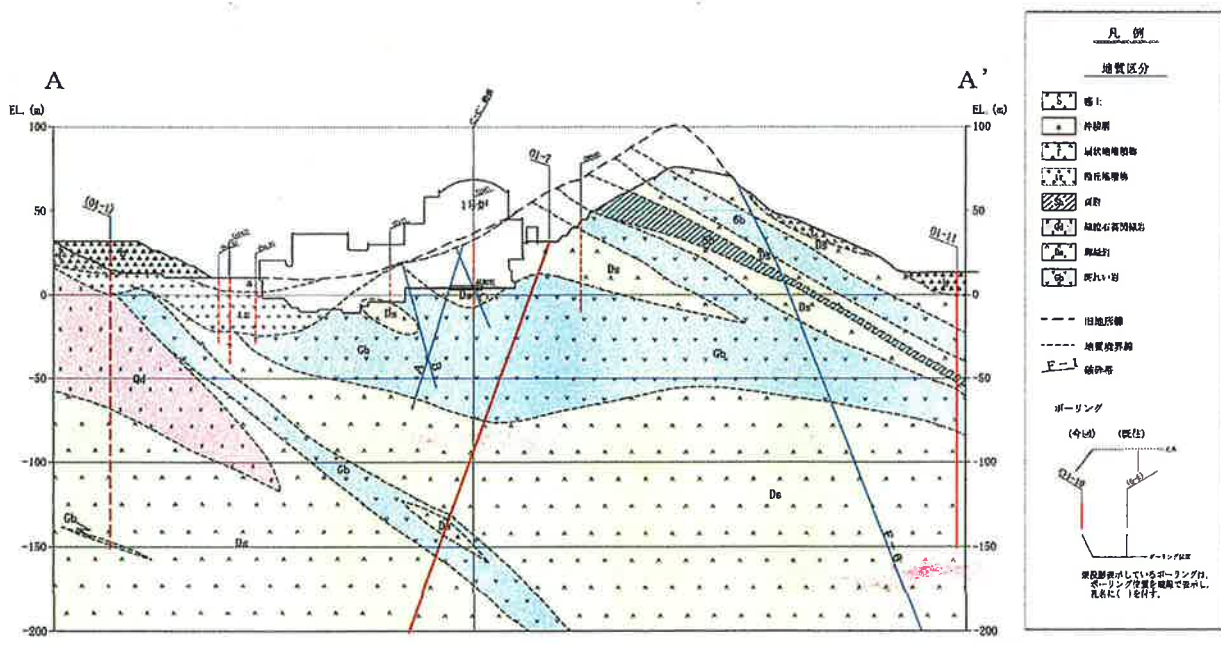
新耐震指針に照らした耐震安全性評価

大飯発電所 敷地の地質・地質構造 【コメント回答】

平成22年8月18日
関西電力株式会社

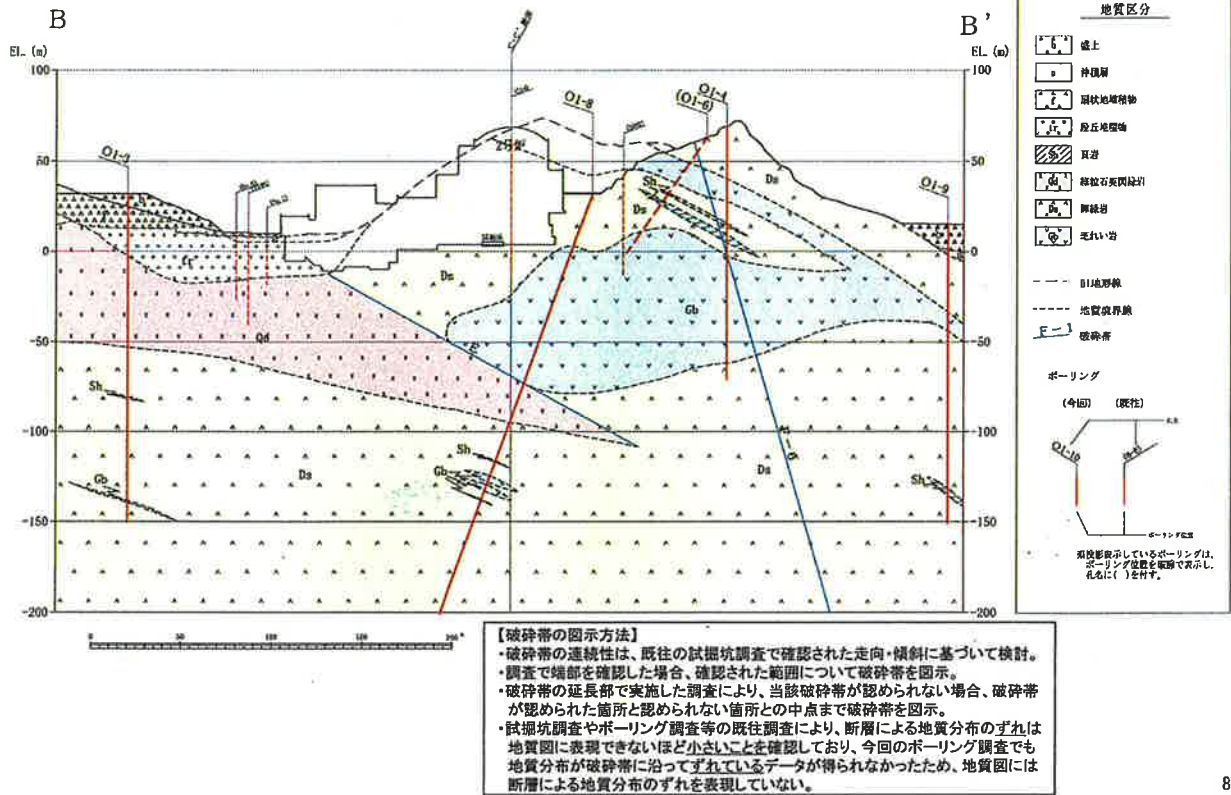
大飯発電所 地質断面図(1号炉:A-A')

合同C26-2
p.21を修正



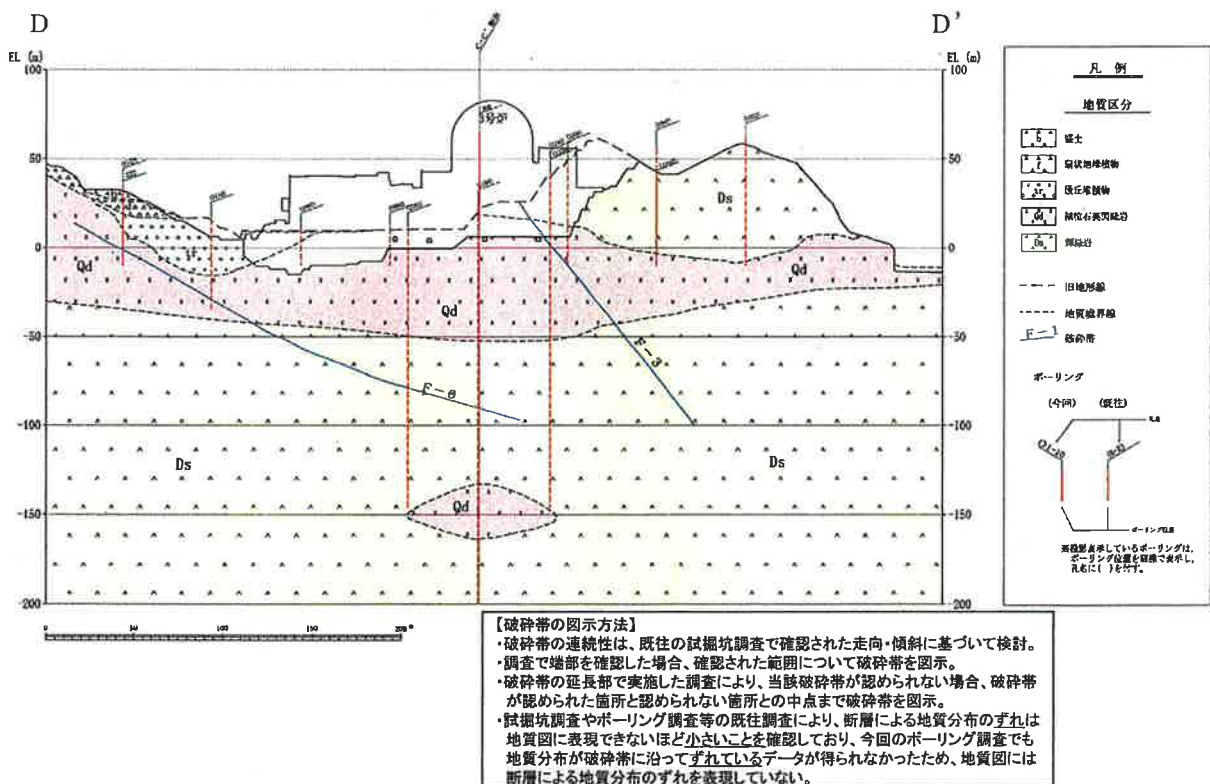
大飯発電所 地質断面図(2号炉:B-B')

合同C28-2
p.22を修正



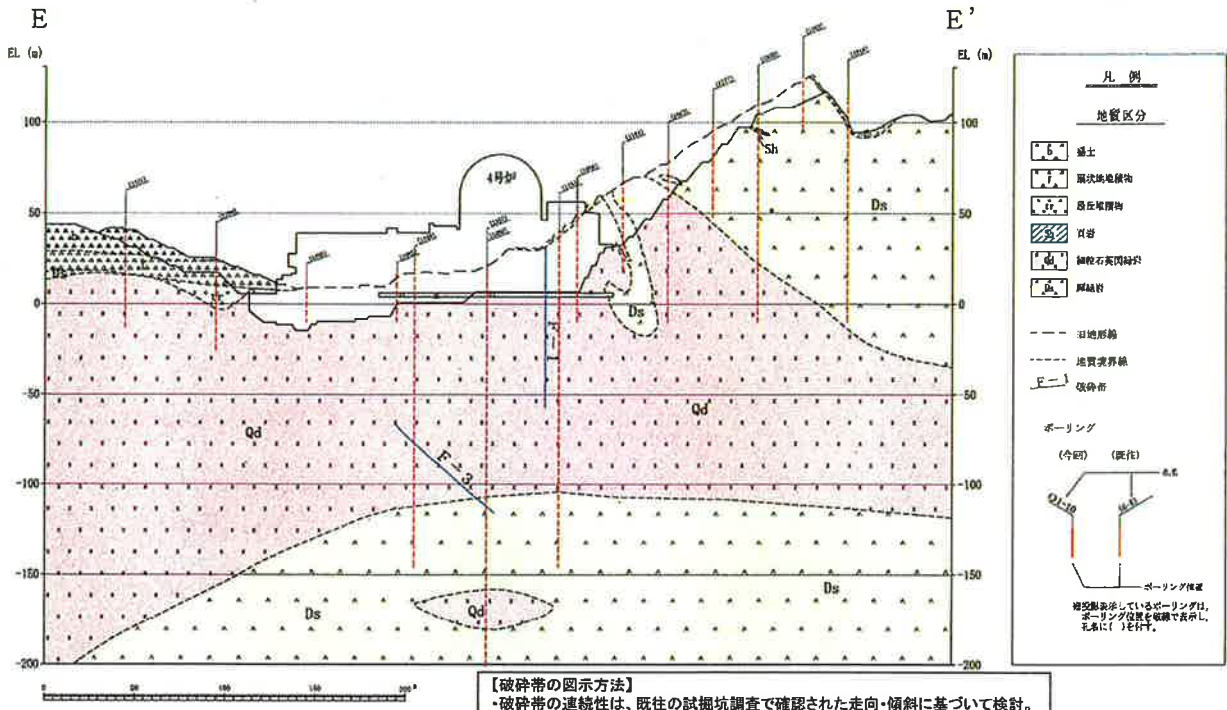
大飯発電所 地質断面図(3号炉:D-D')

合同C28-2
p.23を修正



大飯発電所 地質断面図(4号炉:E-E')

合同C28-2
p.24を修正

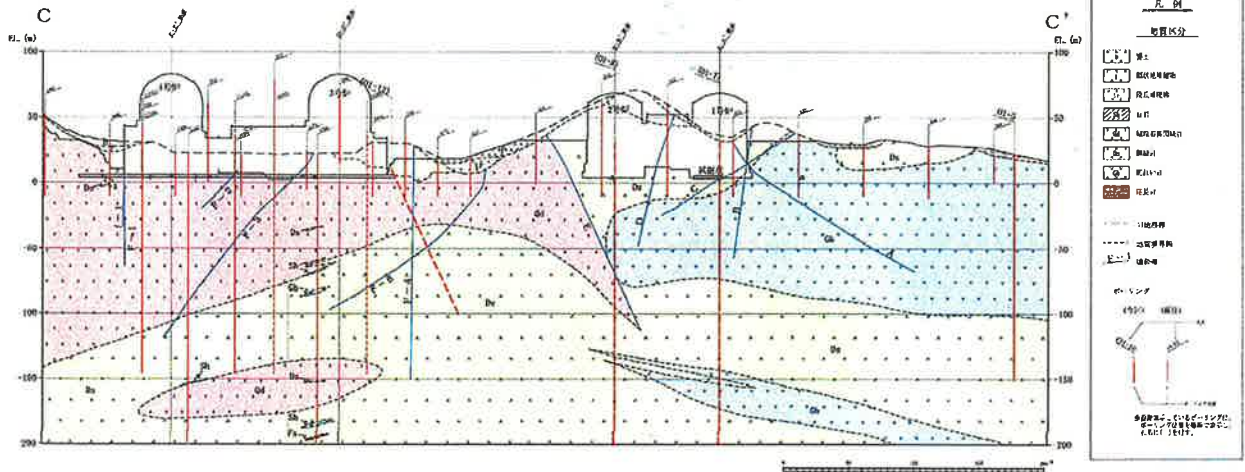


【破砕帯の図示方法】

- 破砕帯の連続性は、既往の試掘坑調査で確認された走向・傾斜に基づいて検討。
- 調査で端部を確認した場合、確認された範囲について破砕帯を図示。
- 破砕帯の延長部で実施した調査により、当該破砕帯が認められない場合、破砕帯が認められた箇所と認められない箇所との中点まで破砕帯を図示。
- 試掘坑調査やボーリング調査等の既往調査により、断層による地質分布のずれは地質図に表現できないほど小さいことを確認しており、今回のボーリング調査でも地質分布が破砕帯に沿ってずれているデータが得られなかったため、地質図には断層による地質分布のずれを表現していない。

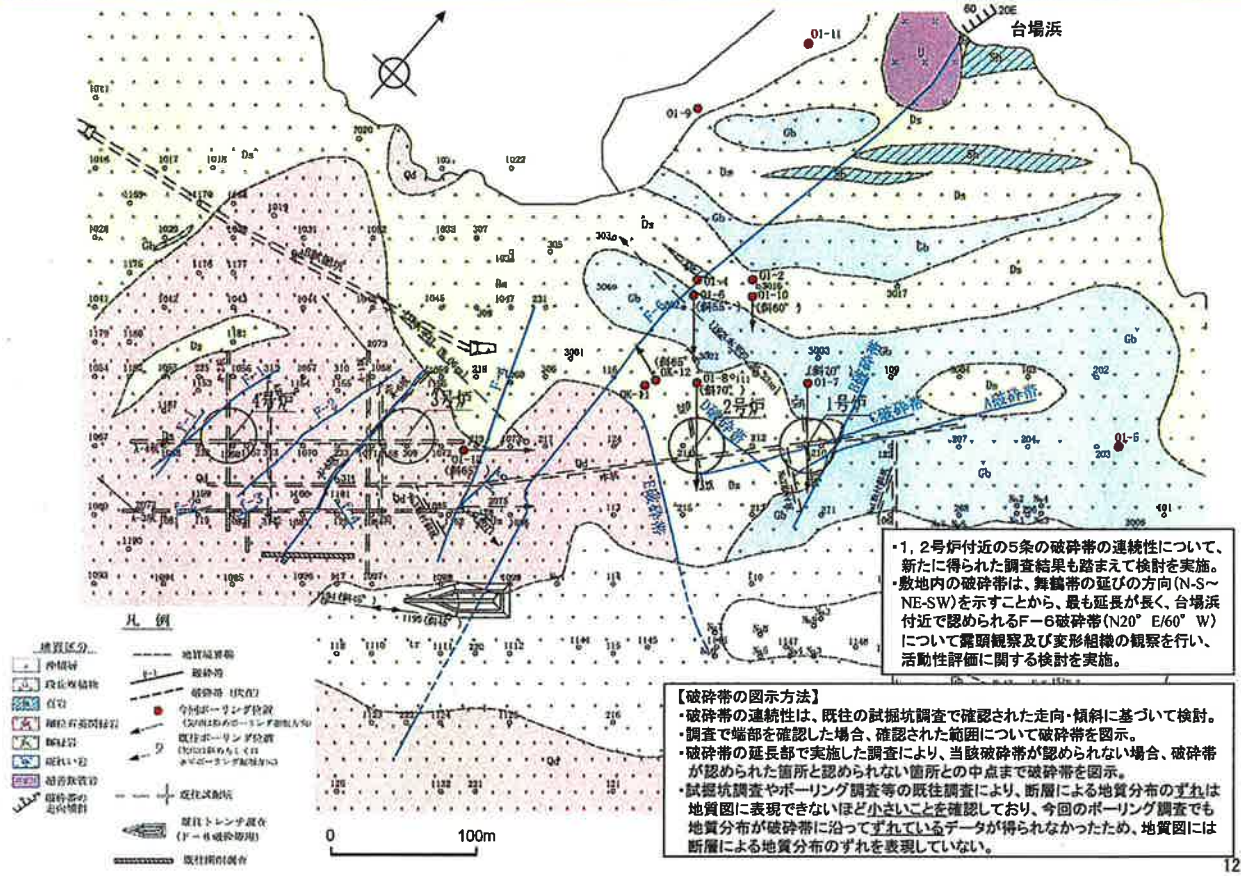
大飯発電所 地質断面図(1~4号炉:C-C')

合同C28-2
p.25を修正



【破砕帯の図示方法】

- 破砕帯の連続性は、既往の試掘坑調査で確認された走向・傾斜に基づいて検討。
- 調査で端部を確認した場合、確認された範囲について破砕帯を図示。
- 破砕帯の延長部で実施した調査により、当該破砕帯が認められない場合、破砕帯が認められた箇所と認められない箇所との中点まで破砕帯を図示。
- 試掘坑調査やボーリング調査等の既往調査により、断層による地質分布のずれは地質図に表現できないほど小さいことを確認しており、今回のボーリング調査でも地質分布が破砕帯に沿ってずれているデータが得られなかったため、地質図には断層による地質分布のずれを表現していない。



12

まとめ

【敷地の地形】

- ・変動地形・リニアメントは判読されない。

【敷地の地質・地質構造】

- ・敷地の北西側から南西側の山地には輝緑岩、斑れい岩、大島層(頁岩)が分布し、敷地の南東から南方の山地、鋸崎にかけて細粒石英閃緑岩が分布。
- ・原子炉設置位置付近で認められる破碎帯の走向はN-S~NE-SW方向であり、舞鶴帯の延びの方向とほぼ一致するため、これらの破碎帯は舞鶴帯の形成と密接に関連していると考えられる。
- ・鋸崎から台場浜にかけて海岸沿いに中位段丘堆積物が分布。

【断層の活動性】

- 最も延長が長く、露頭を確認できるF-6破碎帯について検討した結果、以下の状況から少なくとも後期更新世以降に活動したものではないと判断される。
- ・台場浜の海岸付近で露頭観察を行った結果、断層面は湾曲し破碎部は固結ないし半固結し、明瞭な粘土状破碎部を伴わない。
- ・変形組織の観察を行った結果、破碎部がカタクレイサイトからなる。
- ・設置許可申請書では、トレンチ調査により、F-6破碎帯は中位段丘相当の段丘堆積物に変位を与えていないと評価しており、今回、F-6破碎帯上載層について検討した結果、色調等の性状や分布高度、大島半島北部における火山灰分析結果及び中位段丘に関する文献調査結果から、鋸崎付近に分布する中位段丘堆積物(最終間氷期の地層)と同じである判断される。